

東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会  
担当大臣

丸川 珠代 様

# 要 望 書

平成28年9月9日

福島県いわき市長 清水 敏男

双葉地方町村会長 馬場 有

## 要 望 者

	職名	氏名	備考(役職名)
	いわき市長	清水 敏男	
双葉地方町村会	浪江町長	馬場 有	会 長
	楢葉町長	松本 幸英	副会長
	広野町長	遠藤 智	
	富岡町長	宮本 皓一	
	川内村長	遠藤 雄幸	
	大熊町長	渡辺 利綱	
	双葉町長	伊澤 史朗	
	葛尾村長	松本 允秀	

## 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における 予選試合開催等の誘致について

いわき市では、東京オリンピック・パラリンピック関連事業等を積極的に誘致することにより、スポーツと産業の振興及び風評の払拭並びに東日本大震災から復興した当市の姿と支援に対する感謝を世界に発信することを目的に、平成26年7月に「東京オリンピック・パラリンピック推進本部」を設置しました。加えて、今年度から競技誘致等をより一層推進するため、東京オリンピック・パラリンピック担当の部署を新たに設置したところがあります。

このような中、東京オリンピック競技大会の追加種目競技が、本年8月3日に開催されたI O C（国際オリンピック委員会）総会において正式決定され、大会組織委員会においては、現在、野球競技について、被災地である福島県での予選試合を実施する方向で調整との報道がなされているところでもあります。

いわき市では、2013年には、プロ野球オールスターゲームが開催された実績に加え、本年夏には、第3回W B S C U-15ベースボールワールドカップが日本で初めて開催され、官民挙げての大会運営と「おもてなし」が高く評価されるなど、これまでも野球競技の開催や球場整備等には、特に力を入れて参りました。さらに、積極的に予選試合開催等の誘致を進めるため、平成27年10月から、「野球競技誘致責任者」を配置しているところがあります。

つきましては、こうした実績を考慮していただき、2020年東京オリンピック競技大会の追加種目競技である野球競技の予選試合について、東日本大震災の被災地である福島県浜通り地域のいわき市での開催と、併せて事前合宿・キャンプ地としても選定されますよう、特段のご配慮と全面的な支援を要望いたします。

## 福島県浜通り地域への聖火リレーコースの誘致について

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、I O C（国際オリンピック委員会）に提出した「大会開催基本計画」におきまして、聖火リレーは東日本大震災の被災地や観光名所、文化遺産を巡るルートを検討し、2019年に発表することとしております。本年4月には、福島県立双葉高校、双葉翔陽高校の生徒達が安倍晋三首相や五輪担当相のほか、文部科学相も訪問し、福島県沿岸部の浜通り地域を縦断する国道6号を選定するよう要望活動を行ったところであります。

聖火ランナーが国道6号を縦断しながら駆けることは、取りも直さず沿道の線量低減対策や福島第一原子力発電所の廃炉作業の安全性及び放射性物質飛散対策等により安全で安心できる空間を確保することであり、世界に向けて日本の復興、福島の被災した浜通り地域の復興をアピールできる絶好の機会であると捉えており、まさに復興五輪の名にふさわしい取り組みとなるものであります。

つきましては、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の聖火リレーコースの選定にあたりましては、東日本大震災の被災地であることを考慮していただき、福島県浜通り地域が、地震津波による災害や福島第一原子力発電所の事故から力強く復興している姿を、聖火リレーを通して国内外にアピールする場として、最も適所であることから、国道6号を縦断するルートをぜひとも採用していただくよう、特段のご配慮をお願いいたします。

# 野球競技の誘致について

いわき市では、東日本大震災からの復興を目指し、「野球の力で復興」を合言葉に、2013年の「プロ野球オールスターゲーム」の開催をはじめ、日本初の開催となった「第3回WBSC U-15ベースボールワールドカップ2016(7/29～8/7)」が、本市で開催されるなど、大規模イベントを通じた、「復興の姿」「感謝の意」を発信しております。

今般、野球競技が追加種目として正式決定されたところですが、国際大会等の開催運営実績がある本市「いわきグリーンスタジアム」を活用した予選試合の開催をお願い申し上げます。

## いわきグリーンスタジアムの概要



- ・グラウンド面積: 14,190㎡  
中堅122m・両翼100m
- ・観客席: 29,960人  
内野固定席 14,200人  
外野芝生席 15,760人
- ・夜間照明: 有(6基)
- ・駐車場: 約1,000台
- ・室内練習場: 有(2か所:人工芝)

- ◆ 気温(8月): 福島市: 平均25.4℃、最高30.4℃、最低21.8℃  
郡山市: 平均24.4℃、最高29.4℃、最低20.6℃  
横浜市: 平均26.7℃、最高30.6℃、最低24.0℃  
いわき市: 平均24.2℃、最高27.5℃、最低21.7℃  
▶東京五輪が開催される8月の気温において、本市は、横浜球場がある横浜市より気温が低く、県内他市と比べて試合がやり易い気候環境である。

- ◆ アクセス: 車利用 三郷IC ~ いわき中央IC 約2時間  
(中央区晴海)選手村 ~ いわき中央IC 約2時間30分  
成田IC ~ いわき中央IC 約2時間20分  
電車利用 東京駅 ~ いわき駅 約2時間20分

- ◆ 受入体制: 本市では、2013年プロ野球オールスター及び第3回WBSC U-15W杯の開催に当たって、市内野球団体・市職員等が多数、運営に参画しており、国際大会等の受入体制は万全である。

# 聖火リレーのルートについて

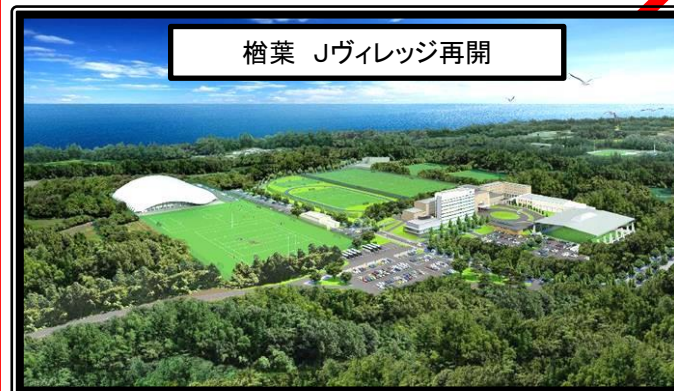
2020年におきましては、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を通じて、双葉8町村・いわき市の復興と安全性を全国・全世界に強く発信してまいりたいと考えておりますので、今後、進められる聖火ルートの設定に当たりまして、沿岸部をコースとする検討をお願い申し上げます。

## 2020年東京五輪聖火リレーの提案ルート

常磐道全線 開通

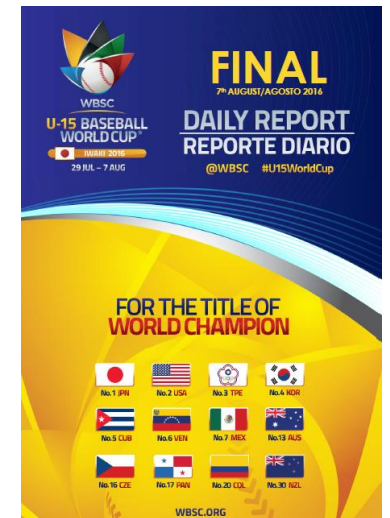
広野 県立ふたば未来学園開校

会津地方 中通り 浜通り



# 「第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ2016」運営実績

- ◆ 去る7月29日から8月7日を大会期間として、15歳以下による野球の世界大会が本市で開催されました。大会期間中の来場者数は約5万人に上り、決勝が「日本 対 キューバ」による熱戦となり、盛況のうちに閉幕となりました。
- ◆ 本大会を通して、本市では、12の国と地域の選手団をはじめ、主催者であるWBSC関係者、そして、大会運営を行う審判団、技術員、記録員など、多数の外国人の受入れを行ったところであります。
- ◆ これら外国人の受入れに当たりましては、市職員が常時帯同しながら、日本での生活等のサポートを行ったほか、大学生を通訳として活用し、多言語に対応するなど、国際大会ならではの様々な課題に取り組んだところ です。
- ◆ また、宿泊施設においては、多国籍に対応した食事の提供やユニホーム等のクリーニング、さらには、球場内でのケータリングの提供や、試合運営に必要なグラウンド整備員、監視員、警備員などを市内野球団体等をメインとしたボランティアで対応するなど、過去のプロ野球の受入経験を活かしたサポート体制を構築し、国際大会運営のノウハウを十分に蓄積したところ です。
- ◆ 加えて、大会開催に当たりましては、日本の同年代(中学生)の交流を通して、世界との絆を深める取り組みとして「一校・一国地域運動」を展開するなど、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会を見据え、文化交流も積極的に図りながら、市全体での取り組みにも努めたところであります。



第3回大会結果表

1		CUBA
2		JAPAN
3		USA
4		PANAMA
5		VENEZUELA
6		COLOMBIA
7		CHINESE TAIPEI
8		SOUTH KOREA
9		MEXICO
10		CZECH REPUBLIC
11		AUSTRALIA
12		NEW ZEALAND



一校・一国地域運動(文化プログラム)



日本 対 PANAMA



閉会式・記念撮影

# 一校・一国地域運動及び2020東京五輪に向けた選手の声



**黒須選手(U-15)、4年後夢見る**  
 本市で開催中の「第3回 WBSC U-15 (15歳以下) ベースボール ワールドカップ」に出場する日本代表、U-15侍ジャパンの監督を務める鹿取義隆監督は「各方面で大きな目標になる」と期待を込めた。

## 8月5日 新聞記事抜粋

- ①福島民報社 提供
- ②いわき民報 提供



「もう一度JAPANのユニホームを着たい」  
 東京五輪出場への意欲を示す黒須選手

「もう一度JAPANのユニホームを着たい」  
 黒須選手は、野口監督から「もう一度JAPANのユニホームを着たい」という言葉を聞いた。黒須選手は「もう一度JAPANのユニホームを着たい」という言葉を聞いた。黒須選手は「もう一度JAPANのユニホームを着たい」という言葉を聞いた。



4年後の東京五輪出場へ向けて誓った黒須選手、野口主将(左から)  
 東北から唯一、日本代表メンバーに選出されるいわきボーイズの黒須大誠選手(中央台北・同)も「もう一度、JAPANのユニホームを着たい。そのときのオリンピックにも出られるよう実力をつけていきたい」と4年後の夢を見据えて、飛躍を誓った。

大きな夢「出たい」  
 U-15野球代表・黒須選手  
 黒須選手は「もう一度JAPANのユニホームを着たい」という言葉を聞いた。黒須選手は「もう一度JAPANのユニホームを着たい」という言葉を聞いた。黒須選手は「もう一度JAPANのユニホームを着たい」という言葉を聞いた。

